

鳴かせてみせよう野生のジュゴン

水産業システム研究センター

研究の背景・目的

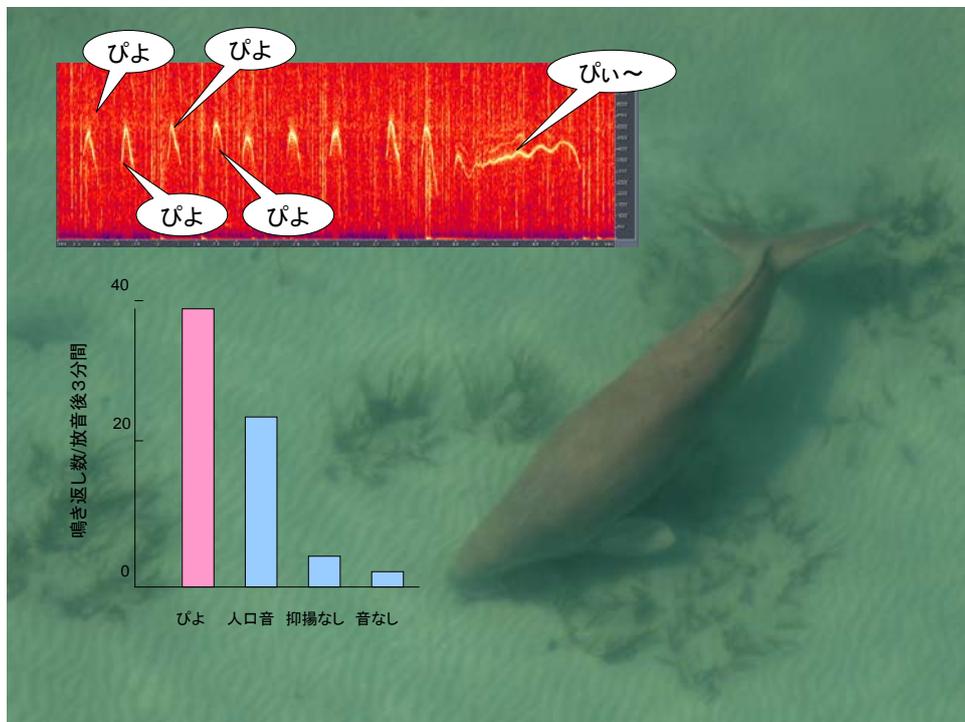
水産資源保護法に指定されているジュゴンは、我が国では沖縄県の一部にしか生息していません。草食性の穏やかな海棲哺乳類のジュゴンは、呼吸の時も鼻先しか水面上に出さず、目視で見つけるのが極めて難しい種類です。水産業とジュゴンとの共生を図るには、ジュゴンの生態をよく知る必要があります。そこで、ジュゴンの鳴き声を使ってその存在確認をすることを考えました。

研究成果

ジュゴンはイルカのように頻繁には鳴かない動物です。私たち研究チームはタイ国に生息するジュゴンを対象に、同種の声を水中に流すことで野生のジュゴンが鳴き返してくることを明らかにしました。チャープ音と呼ばれる声に反応したことから、ジュゴンがこの声をなんらかのコミュニケーションに使っていることが示唆されました。*J. Acoust. Soc. Am.* 129, 3623-3629.

波及効果

なかなか見つけることができないジュゴンを、声で確認することが技術開発の第一歩となります。録音装置とプレイバック装置（録音した鳴き声そのまま水中に流す装置）を組み合わせることで、発見率を2倍に向上させることができそうです。録音装置の長期運用化や声の自動判別ソフト開発などが進んでいます。



空からみたジュゴン（撮影 Surasak Thongsukdee）。ジュゴンのぴよぴよ声を水中に流すと、他の人工音や音を流さないときに比べたたくさんの鳴き返しがあつた。京都大学、ブーケット海洋生物センターとの共同研究成果。

（エネルギー・生物機能利用技術グループ：赤松 友成）